

(II) 私の飼料栽培

鹿児島県薩摩郡有明町野神
屋附正男

数年前までの私の経営で最大の悩みは、自分達の食糧や販売作物を如何に効率よく作るかということよりも、家畜の食糧つまり牧草作りをどのように上手に作って確保するかということでありました。

特に冬期は、稲藁と濃厚飼料だけという栄養に乏しい餌付でありました。また夏は放牧を主としますが、これまた栄養の少ない野草だけで飼育しており、秋から冬にかけて、春の間はえんばくと少量のイタリアンライグラス、れんげ草を与え、結果として年間を通してみると、飼料が豊富な時期と極端に不足する時期があるという状況でありました。

私の家族構成は第一表の通りで、私が経営の中心となり、妻と父母が手伝ってもらえるという比較的恵まれた家族構成であります。また土地状況は第二表に示す通りで、畑作が主であります。水田山林も夫々保有しており、この点でもやり方如何では十分多角的に経営できると考えられます。第三表には農機具その他を表示しましたが、飼育している家畜は第四表の通りで、馬三頭と牛三頭が大家畜であります。そこで経営改善の最大目標を一月〜三月と六月〜八月の農繁期の青草刈り、十月〜

第1表 家族構成 (1964)

続柄	氏名	年齢	職
父	屋附 一	62	農業
母	はるの	58	〃
本人	正男	28	〃
妻	カズ子	25	〃
妹	ヤス子	17	学生

第2表 土地状況 (畝)

畑	2.5	山林	3.0
水田	0.8	原野	1.0

第3表 農機具その他

カルチ	1	発動機 (馬5)	1	荷馬車	1
カッター	1	(石油)		モーター	1
チョッパー	1	精米機	1	バイク	
		庄扁機	1		

第4表 家畜飼養状況

馬	3	サラブレッド 2, アラブ 1
牛	3	生産及び役用 2, 仔牛 1
鶏	10	卵自家用

十二月の飼料不足期に如何に多くの青草を十分給与するかに設けました。このため技術員や経験者からも指導を受け、今ではどうにか年間通して平均に青草の給与ができるようになりました。

これを説明しますと、冬は青刈りえんばくと下総かぶ、C・Oを栽培することにより解決し、夏はテオシント、青刈大豆、サトウキビでまかない、春はクロバー(ラデノ、ケンランド)オーチャード、イタリアンライなどの牧草栽培をするようになったことが大きな成功の鍵だと思えます。このために労働のピークが無くなり、年間の労働量が均一化され、更に地力がついてきましたし、家畜の健康状態もよく、繁殖率も非常によくなって参りました。



刈取りのテオシント

ここでテオシントの刈り方について申し上げますが、ご参考になれば良いと思えます。播種は三月上旬に致しまして、五月中旬に苗を定植しますと、七月上旬より葉部だけ刈り取ります。二番以降は逐次生育に

従い葉部を収穫して十月上旬より地際から刈り取りますと結局七〜八回刈り取りができますので、少量の面積で多くの収穫をあげられます。

また冬期の飼料下総かぶの栽培について述べますと、下総かぶは十月上旬に播種して十一月上旬より間引きをして一月までに二〜三回間引きます。そして一月の青刈飼料不足期には葉だけを刈り取りますと、三月上旬には第二回目の葉部収穫ができますので、これも少量の面積で多くの収量をあげることができます。

以上簡単に私の飼料栽培でうまくいっている頻繁な刈取方式をご紹介します。最後に一般的な飼料栽培表を作成したので掲載いたします。

第5表 飼料栽培表

作物名	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
クロバー(赤、ラデノ)				△	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
れんげ草				△	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
えんばく				△	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
イタリヤンコイ				△	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
テオシント				△	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
いもづる				△	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
下総かぶ、C・O				△	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
青刈大豆				△	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
野				△	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

註) ○ 播種 — 生育期 △ 刈取り期